

証券コード 3054
(発送日) 2023年3月7日
(電子提供措置の開始日) 2023年3月2日

株 主 各 位

東京都中央区日本橋堀留町二丁目9番6号
株 式 会 社 ハ イ パ ー
代表取締役社長 望 月 真 貴 子

第33回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社第33回定時株主総会を下記により開催いたしますので、ご案内申し上げます。

本株主総会の招集に際しては、株主総会参考書類等の内容である情報（電子提供措置事項）について電子提供措置をとっており、インターネット上の以下の各ウェブサイトに掲載しておりますので、いずれかのウェブサイトにアクセスの上、ご確認くださいませようお願い申し上げます。

【当社ウェブサイト】

<https://www.hyperpc.co.jp/ir/meeting.html>



(上記ウェブサイトへアクセスいただき、「IR情報」よりご確認ください。)

【株主総会資料 掲載ウェブサイト】

<https://d.sokai.jp/3054/teiji/>



【東京証券取引所ウェブサイト（東証上場会社情報サービス）】

<https://www2.jpx.co.jp/tseHpFront/JJK010010Action.do?Show=Show>



(上記の東証ウェブサイトへアクセスいただき、「銘柄名(会社名)」に「ハイパー」又は「コード」に当社証券コード「3054」を入力・検索し、「基本情報」「縦覧書類/PR情報」を順に選択して、「縦覧書類」にある「株主総会招集通知/株主総会資料」欄よりご確認ください。)

なお、当日ご出席されない場合は、インターネット等又は書面（郵送）によって議決権を行使することができますので、お手数ながら株主総会参考書類をご検討の上、2023年3月22日（水曜日）午後6時までに議決権を行使していただきますようお願い申し上げます。

[インターネットによる議決権行使の場合]

当社指定の議決権行使ウェブサイト (<https://www.web54.net/>) にアクセスしていただき、本招集ご通知とあわせてお送りする議決権行使書用紙に表示された「議決権行使コード」及び「パスワード」をご利用の上、画面の案内にしたがって、議案に対する賛否を上記の行使期限までにご入力ください。

インターネットによる議決権行使に際しましては、後記の「インターネット等による議決権行使のご案内」をご確認くださいませようお願い申し上げます。

[書面（郵送）による議決権行使の場合]

議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、上記の行使期限までに到着するようご返送ください。

敬 具

記

1. 日 時 2023年3月23日（木曜日）午前10時（開場午前9時）
2. 場 所 東京都中央区日本橋茅場町一丁目5番8号
東京証券会館 8階 ホール
(末尾の「株主総会会場ご案内図」をご参照ください。)
3. 目的事項
報告事項 1. 第33期（2022年1月1日から2022年12月31日まで）事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
2. 第33期（2022年1月1日から2022年12月31日まで）計算書類報告の件
決議事項
第1号議案 剰余金処分の件
第2号議案 取締役7名選任の件
第3号議案 監査役1名選任の件
第4号議案 会計監査人選任の件
4. 招集にあたっての決定事項（議決権行使についてのご案内）
 - (1)書面（郵送）により議決権を行使された場合の議決権行使書において、議案に対する賛否の表示がない場合は、賛成の表示があったものとしてお取り扱いいたします。
 - (2)インターネットにより複数回、議決権を行使された場合は、最後に行われた議決権行使を有効なものとしてお取り扱いいたします。
 - (3)インターネットと書面（郵送）により重複して議決権を行使された場合は、到着日時を問わず、インターネットによる議決権行使を有効なものとしてお取り扱いいたします。

- (4)代理人により議決権を行使される場合は、議決権を有する他の株主の方1名を代理人として株主総会にご出席いただけます。ただし、代理権を証明する書面のご提出が必要となりますのでご了承ください。
- (5)議決権の不統一行使をされる場合は、株主総会の日3日前までに議決権の不統一行使を行う旨とその理由を書面により当社にご通知ください。

以 上

- ◎当日ご出席の際は、お手数ながら議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。
- ◎電子提供措置事項に修正が生じた場合は、上記インターネット上の各ウェブサイトにおいて、その旨、修正前及び修正後の事項を掲載いたします。
- ◎書面交付請求をいただいた株主様には、電子提供措置事項を記載した書面をあわせてお送りいたしますが、当該書面は、法令及び当社定款第13条の規定に基づき、次に掲げる事項を除いております。
- ①事業報告の「新株予約権等の状況」
 - ②連結計算書類の「連結注記表」
 - ③計算書類の「個別注記表」

したがいまして、当該書面に記載している事業報告、連結計算書類及び計算書類は、会計監査人が会計監査報告を、監査役が監査報告を作成するに際して監査をした対象書類の一部であります。

ご出席の株主様へのお土産はご用意いたしておりません。何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。

<株主様へのお願い>

新型コロナウイルス感染症の拡大防止及び株主様の安全確保の観点から、できる限り事前に書面投票（郵送）・電子投票により議決権を行使していただき、本株主総会会場へのご来場をお控えくださいますようお願い申し上げます。

また、本株主総会の開催場所・開催時刻を含む運営を変更する場合は、当社ウェブサイト(<https://www.hyperpc.co.jp/>)に掲載いたします。最新の情報をご確認くださいようお願いいたします。



議決権行使についてのご案内

株主総会における議決権は、株主の皆様のご大切な権利です。後記の株主総会参考書類をご検討の上、議決権を行使していただきますようお願い申し上げます。

議決権を行使する方法は、以下の3つの方法がございます。



株主総会にご出席される場合

同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出ください。

日 時

2023年3月23日(木曜日)
午前10時(受付開始:午前9時)



書面(郵送)で議決権を行使される場合

同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示のうえ、ご返送ください。

行使期限

2023年3月22日(水曜日)
午後6時到着分まで



インターネットで議決権を行使される場合

次ページの案内に従って、議案の賛否をご入力ください。

行使期限

2023年3月22日(水曜日)
午後6時入力完了分まで

議決権行使書用紙のご記入方法のご案内

議決権行使書 株主番号 ○○○○○○○○ 議決権の数 XX 個

御中

××××年 ×月××日

○○○○○○○

1. _____

2. _____

3. _____

4. _____

(株主印)

スマートフォン用
議決権行使
ウェブサイト
ログインQRコード

見本

○○○○○○○

こちらに議案の賛否をご記入ください。

第1・3・4号議案

- 賛成の場合 >> 「賛」の欄に○印
- 反対する場合 >> 「否」の欄に○印

第2号議案

- 全員賛成の場合 >> 「賛」の欄に○印
- 全員反対する場合 >> 「否」の欄に○印
- 一部の候補者を反対する場合 >> 「賛」の欄に○印をし、反対する候補者の番号をご記入ください。

※議決権行使書用紙はイメージです。

書面(郵送)及びインターネット等の両方で議決権行使をされた場合は、インターネット等による議決権行使を有効な議決権行使としてお取り扱いいたします。また、インターネット等により複数回、議決権行使をされた場合は、最後に行われたものを有効な議決権行使としてお取り扱いいたします。

インターネット等による議決権行使のご案内

QRコードを読み取る方法 「スマート行使」

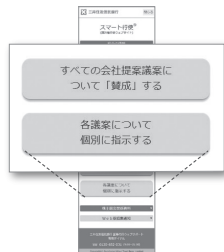
議決権行使コード及びパスワードを入力することなく議決権行使ウェブサイトにログインすることができます。

- 1 議決権行使書用紙右下に記載のQRコードを読み取ってください。



※「QRコード」は株式会社デンソーウェブの登録商標です。

- 2 以降は画面の案内に従って賛否をご入力ください。



「スマート行使」での議決権行使は1回に限り可能です。

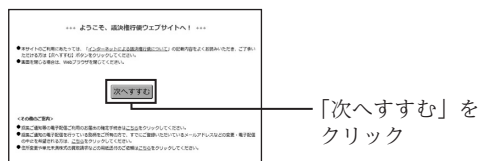
議決権行使後に行使内容を変更する場合は、お手数ですがPC向けサイトへアクセスし、議決権行使書用紙に記載の「議決権行使コード」・「パスワード」を入力してログイン、再度議決権行使をお願いいたします。

※QRコードを再度読み取っていただくと、PC向けサイトへ遷移できます。

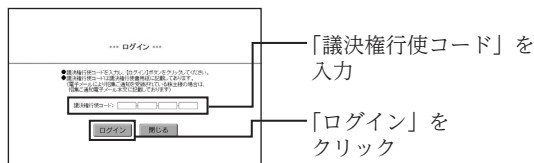
議決権行使コード・パスワードを入力する方法

議決権行使ウェブサイト <https://www.web54.net>

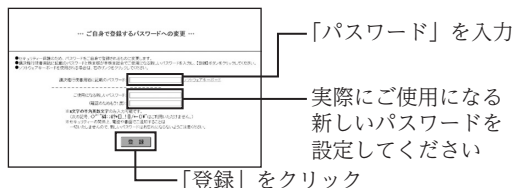
- 1 議決権行使ウェブサイトへアクセスしてください。



- 2 議決権行使書用紙に記載された「議決権行使コード」をご入力ください。



- 3 議決権行使書用紙に記載された「パスワード」をご入力ください。



- 4 以降は画面の案内に従って賛否をご入力ください。

※操作画面はイメージです。

インターネットによる議決権行使でパソコンやスマートフォン、携帯電話の操作方法などがご不明な場合は、右記にお問い合わせください。

三井住友信託銀行 証券代行ウェブサポート 専用ダイヤル
電話番号：0120-652-031 (フリーダイヤル)
(受付時間 9:00~21:00)

機関投資家の皆様は、株式会社ICJの運営する機関投資家向け議決権電子行使プラットフォームをご利用いただくことが可能です。

事業報告

(2022年1月1日から
2022年12月31日まで)

1. 企業集団の現況

(1) 当事業年度の事業の状況

① 事業の経過及び成果

当連結会計年度におけるわが国の経済は、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気は緩やかに持ち直しております。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスク、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響や中国における感染拡大など先行きに不透明な要素が見られました。

当社グループが属するコンピュータ販売業界におきましては、国内の販売台数はパソコンの買い替え需要の低迷や企業の設備投資減少による影響を強く受け、市場全体が大幅な縮小傾向で推移いたしました。中堅、中小企業に対するサイバー攻撃の増加で、サプライチェーンにおける対策の必要性が認識され、セキュリティ対策ソリューション、セキュリティ教育の需要が増加傾向にありました。

このような環境のもと、当社グループにおきましては、ニーズが高まるセキュリティ関連事業への継続的な取り組みに注力してまいりました。また、新規顧客の開拓、ソリューション営業、ストックビジネスの強化、DX関連需要への対応や取引先とのアライアンス強化、顧客開拓と関係強化に向けたCRM活用等を図ることにより、事業の収益力の継続的な向上に取り組んでまいりました。クライアントPCにおける半導体不足による影響は弱まり、サプライチェーンの回復が見られたものの、急激な円安による調達価格の高騰などの影響により、法人市場でのパソコン需要の後退が進み売上は減少いたしました。

以上の結果、当連結会計年度の業績は、売上高は10,599,063千円（前連結会計年度比48.4%減）、経常損失41,144千円（前連結会計年度の経常利益は36,056千円）、親会社株主に帰属する当期純損失は499,376千円（前連結会計年度の親会社株主に帰属する当期純損失は53,481千円）となりました。

なお、売上高につきましては、「収益認識に関する会計基準」適用の影響により当連結会計年度の売上高が11,024,770千円減少しております。

各セグメント別の営業の概況は次のとおりであります。

【ITサービス事業】

法人向けコンピュータ市場においては、ウィズコロナの下で企業活動の抑制傾向は続いているものの、一部の業種において設備投資に持ち直しの動きも見られましたが、地政学的リスクの高まりや資源、原材料価格、エネルギー価格の高騰等による先行き不透明な状況が続きました。また、PCの供給については、2022年後半から半導体不足による影響が弱まり増加傾向にあるものの、国内景気の先行き不透明感から新規顧客向け活動の回復に遅れが見られることに

加え、国際的な物流の停滞などもあり、サーバーおよびネットワーク機器の部材不足は継続し、供給は引き続き不安定な状況が続きました。法人市場、特に当社の主要取引先である中堅中小企業が対象となるコンピュータ市場においては、大変厳しい状況が続いております。

当社グループにおきましては、新規顧客の開拓と関係強化、ストックビジネスの強化、取引先とのアライアンス強化、インサイドセールス機能の強化などに注力してまいりました。

取引先とのアライアンスを活かし、PCを中心とした売れ筋商材の確保を積極的に行ってまいりましたが、急激な円安による調達価格の上昇分を販売価格に転嫁せざるを得ない状況などもあり、顧客の購買行動に抑制傾向が強まったことで、パソコン販売台数は昨年を下回りました。新規サービスのセキュリティ診断やセキュリティ教育事業においては、売上高が大幅に伸びました。また、顧客に対してサイバーセキュリティソリューションへの営業活動を強化したことで、エンドポイント及びアプライアンス関係等のセキュリティ販売における売上高が前連結会計年度比16.7%増となりましたが、パソコン需要の低迷による売上減少分を補うことはできませんでした。

その結果、売上高は9,397,222千円（前連結会計年度比16.2%減）、営業損失は209,531千円（前連結会計年度の営業損失は59,068千円）となりました。

なお、売上高につきましては、「収益認識に関する会計基準」適用の影響により当連結会計年度の売上高が1,484,066千円減少しております。

【アスクルエージェント事業】

インターネットを用いた新たな手法により効率化を図り、既存取引先の稼働促進や新規取引先の拡大などの営業活動を強化し、日用品、衛生用品などの販売が好調に推移、生活消耗品の需要の高まりもあり、売上高、営業利益は堅調に推移いたしました。また、2022年8月31日にアスクル代理店事業を譲り受け、より一層の収益性の向上や競争力の強化に努めました。

その結果、売上高は1,116,908千円（前連結会計年度比87.9%減）、営業利益は157,217千円（前連結会計年度比44.6%増）となりました。

なお、売上高につきましては、「収益認識に関する会計基準」適用の影響により当連結会計年度の売上高が9,540,704千円減少しております。

【その他】

当社グループは、就労移行支援事業及び放課後等デイサービス事業を3施設運営してまいりましたが、2022年9月1日に放課後等デイサービス事業2施設を事業譲渡いたしました。就労移行支援事業につきましては、同年9月1日以降も事業として継続し、経営資源を集中することで、事業の拡大を図っております。

その結果、売上高は84,932千円（前連結会計年度比7.4%減）、営業利益は7,058千円（前連結会計年度の営業損失は1,038千円）となりました。

<当社グループの売上高内訳>

区 分	第32期（2021年12月期）		第33期（2022年12月期）	
	売 上 高 （ 千 円 ）	構 成 比 （ % ）	売 上 高 （ 千 円 ）	構 成 比 （ % ）
I T サ ー ビ ス 事 業	11,212,595	54.6	9,397,222	88.7
ア ス ク ル エ ー ジェ ン ト 事 業	9,232,238	45.0	1,116,908	10.5
そ の 他	91,703	0.4	84,932	0.8
合 計	20,536,537	100.0	10,599,063	100.0

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当連結会計年度の期首から適用しております。収益認識に関する会計処理方法を変更したため、アスクルエージェント事業の売上高については前年度と比較し減少額が大きくなっております。

- ② 設備投資の状況
当連結会計年度において、重要な設備の取得、除却及び売却等はありません。
- ③ 資金調達の状況
当連結会計年度において、重要な資金の調達はありません。
- ④ 事業の譲渡、吸収分割または新設分割の状況
記載すべき重要な事項はありません。
- ⑤ 他の会社の事業の譲受けの状況
当社は、2022年8月31日、株式会社No.1のアスクル代理店事業を譲り受けております。
- ⑥ 吸収合併または吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況
該当事項はありません。
- ⑦ 他の会社の株式その他の持分または新株予約権等の取得または処分の状況
該当事項はありません。

(2) 財産及び損益の状況

① 企業集団の財産及び損益の状況

(単位：千円)

区 分	第30期 (2019年12月期)	第31期 (2020年12月期)	第32期 (2021年12月期)	第33期 (当連結会計年度) (2022年12月期)
売 上 高	25,139,298	21,351,579	20,536,537	10,599,063
親会社株主に帰属する 当期純利益又は親会社 株主に帰属する当期純 損 失 (△)	334,214	182,350	△53,481	△499,376
1株当たり当期純利益 又は当期純損失(△)	38円72銭	20円47銭	△5円72銭	△51円50銭
総 資 産	6,644,414	6,799,998	6,833,067	7,125,173
純 資 産	2,940,307	3,151,806	3,363,025	2,775,768
1株当たり純資産額	329円14銭	341円78銭	340円56銭	280円02銭

- (注) 1. 当社は、役員向け株式交付信託制度を導入しております。当制度の導入に伴い、三井住友信託銀行株式会社(信託口)(再信託受託者：株式会社日本カストディ銀行(信託口))が保有している当社株式を、1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めており、また、1株当たり純資産額の算定上、期末発行済株式総数から控除する自己株式数に含めております。
2. 過年度の会計処理に関して、一部不適切な処理が含まれていることが判明し、過年度に遡り訂正しております。第31期の数値は、当該訂正による遡及処理後の数値であります。
3. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第33期の期首より適用しており、第33期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値を記載しております。

② 当社の財産及び損益の状況

(単位：千円)

区 分	第30期 (2019年12月期)	第31期 (2020年12月期)	第32期 (2021年12月期)	第33期 (当事業年度) (2022年12月期)
売 上 高	24,239,569	20,489,291	19,637,138	9,489,710
当期純利益又は当期純 損 失 (△)	269,538	174,612	△64,639	△530,606
1株当たり当期純利益 又は当期純損失 (△)	31円23銭	19円60銭	△6円91銭	△54円72銭
総 資 産	6,368,737	6,531,261	6,531,417	6,756,153
純 資 産	2,842,568	3,046,329	3,246,390	2,627,903
1株当たり純資産額	317円91銭	330円05銭	328円51銭	264円77銭

- (注) 1. 当社は、役員向け株式交付信託制度を導入しております。当制度の導入に伴い、三井住友信託銀行株式会社(信託口)(再信託受託者：株式会社日本カストディ銀行(信託口))が保有している当社株式を、1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めており、また、1株当たり純資産額の算定上、期末発行済株式総数から控除する自己株式数に含めております。
2. 過年度の会計処理に関して、一部不適切な処理が含まれていることが判明し、過年度に遡り訂正しております。第31期の数値は、当該訂正による遡及処理後の数値であります。
3. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第33期の期首より適用しており、第33期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値を記載しております。

(3) 重要な親会社及び子会社の状況

① 親会社の状況

該当事項はありません。

② 重要な子会社の状況

会 社 名	資 本 金	当社の 議決権比率	主 要 な 事 業 内 容
株式会社リステック	50,000千円	100%	小規模企業向けセキュリティサーバー等の情報機器の企画・販売
株式会社みらくる	20,000千円	100%	児童福祉法及び障害者総合支援法に基づくサービスの提供
マルチネット株式会社	100,000千円	100%	ITコンサルティング、ネットワークシステムの構築

(注) 当事業年度末日において特定完全子会社はありません。

(4) 対処すべき課題

当社グループは、経営基盤のさらなる安定と継続的な成長を目指し、常に企業価値を高めるために、以下の目標に前向きに取り組んでまいります。

(利便性の追求)

コンピュータ販売を中心に、アスクル代理店業務、ITサービス等の各事業により、ユーザーとの強力な取引関係を築き、常に新しい商材・サービスを提供し続けることで、ユーザーにとって一番利便性が高い企業を目指します。

(効率的な企業運営)

社内システムや組織体制の見直し、業務改善等を通じて業務の効率化を図るとともに、成長率が高く利益率が高い事業分野に積極的に資源を投入することにより、収益性を高め効率的な企業運営を目指します。

(信頼される企業)

従業員のモラルとモチベーションを高めながら、業績の向上、透明性の高い経営体制の維持、コンプライアンス・情報管理の徹底、優秀な人材の育成等を通じて、株主やユーザー・仕入先等のお取引先から信頼される企業を目指します。

上記に掲げた目標に対して、対処すべき課題として以下の施策に取り組んでまいります。

- ① ユーザーにとって利便性の高いサービスを提供するにあたって、業務のシステム化、業務フローの改善等により、さらなる生産性の向上に取り組む必要があります。
- ② 当社グループは、さらなる業容の拡大をするために、市場のニーズに呼応した新たな事業を展開していく必要があります。また、これらの新規事業やサービスの早期収益化を目指してまいります。
- ③ 優秀な人材の育成は、経営基盤を維持し、拡大する上で不可欠であり、今後も教育研修制度の充実等による人材育成の強化に取り組む必要があります。

(役務提供取引における不適切な売上処理)

当社は、2021年12月期の決算業務を進めるなかで、オフィスデザインの役務提供取引において、不適切な売上処理が行われていた疑いがあることが判明したため、2022年2月18日から利害関係を有しない外部の有識者から構成される特別調査委員会を設置し、2022年4月22日付で特別調査委員会より調査報告書を受領、調査が終了いたしました。

当社は、特別調査委員会の調査結果を真摯に受けとめ、再発防止策を定め、取組みを進めてまいりました。

(再発防止策)

当社といたしましては、財務報告に係る内部統制の重要性を十分認識しており、開示すべき重要な不備を是正するために、調査報告書の提言を踏まえ、以下のとおり、再発防止策を実行し、内部統制の整備・運用を図ってまいりました。

1. オフィスデザインの役務提供取引に対する管理体制の再構築
 - (1) リスクの洗出しと評価
 - (2) 本件の不正の手口を踏まえた予防統制・発見統制の導入
2. 内部監査部門も含めた管理部門によるモニタリング機能の強化
 - (1) 内部監査部門やその補助者の増員、外部専門家導入などによる人員面の強化
 - (2) 取締役会その他の重要な意思決定機関の議論の記録化を徹底
3. 経営陣を含めた管理職及び部門担当者の業務及び会計知識の向上
 - (1) 外部専門家による役員向け、従業員向けの研修を実施
4. 業務分掌、職務権限における権限と責任の範囲の厳格化
 - (1) 部門長による案件担当の禁止
 - (2) 担当者の活動をブラックボックス化させないための人事ローテーションの実施
5. コンプライアンス意識の改革
 - (1) 経営トップからのコンプライアンス最優先のメッセージ発信
 - (2) 関与者に対する厳正な処分と、問題となった行為の内容を社内へ周知徹底
 - (3) 教育・研修の継続的な実施によるコンプライアンス意識の醸成
 - (4) コンプライアンス窓口の充実化の検討

当事業年度末時点において、上記の5項目すべての再発防止策の実行が完了いたしております。

今後も引き続き再発防止策を着実に実行し、ガバナンス及び内部管理体制の強化を図ることにより、皆様の信頼回復と当社グループの企業価値の向上により一層尽力してまいります。

(5) 主要な事業内容 (2022年12月31日現在)

セグメント	事業内容
ITサービス事業	コンピュータ及び周辺機器、ソフトウェア等の法人顧客への販売、ネットワーク構築、コンピュータの設定・保守、その他のITサービス
アスクルエージェント事業	アスクル代理店業務、事務用品、オフィス家具等の販売
その他	障害者総合支援法に基づくサービスの提供

(注) アスクル……東証プライム上場企業アスクル株式会社が行っているオフィス関連用品の通信販売事業「ASKUL」の代理店業務

(6) 主要な営業所等 (2022年12月31日現在)

① 当社

本社	東京都中央区
大阪支店	大阪府大阪市中央区
広島支店	広島県広島市中区
名古屋支店	愛知県名古屋市中区
福岡支店	福岡県福岡市博多区

② 子会社

株式会社リステック	東京都中央区
株式会社みらくる	東京都中央区
マルチネット株式会社	東京都千代田区

(7) **使用人の状況** (2022年12月31日現在)

① 企業集団の使用人の状況

事業区分	使用人数	前連結会計年度末比増減
ITサービス事業	192 (17) 名	2名増 (－)
アスクルエージェント事業	28 (7)	3名増 (－)
その他	6 (－)	8名減 (1名減)
全社(共通)	42 (4)	17名減 (1名増)
合計	268 (28)	20名減 (－)

(注) 使用人数は就業員数であり、臨時雇用者数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。

② 当社の使用人の状況

使用人数	前事業年度末比増減	平均年齢	平均勤続年数
218 (26) 名	10名減 (－)	40.0歳	10.3年

(注) 使用人数は就業員数であり、臨時雇用者数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。

(8) **主要な借入先の状況** (2022年12月31日現在)

借入先	借入金残高(百万円)
株式会社横浜銀行	748
株式会社三井住友銀行	150
株式会社三菱UFJ銀行	150
株式会社みずほ銀行	150
朝日信用金庫	70

(9) **その他企業集団の現況に関する重要な事項**

該当事項はありません。

2. 会社の現況

(1) 株式の状況 (2022年12月31日現在)

- ① 発行可能株式総数 普通株式 26,400,000株
- ② 発行済株式の総数 普通株式 9,832,900株 (自己株式2,408株を含む)
 (注) ストック・オプションの行使により、発行済株式の総数は18,000株増加しております。
- ③ 株主数 14,178名 (前期末比596名増)
- ④ 単元株式数 100株
- ⑤ 大株主 (上位10名)

株 主 名	所 有 株 式 数	持 株 比 率
ララコーポレーション株式会社	2,357,000株	23.98%
玉 田 宏 一	1,310,500	13.33
エ プ ソ ン 販 売 株 式 会 社	700,000	7.12
遠 藤 孝	536,800	5.46
株 式 会 社 ミ ー ト プ ラ ン ニ ン グ	404,000	4.11
関 根 俊 一	242,100	2.46
ハ イ パ ー 従 業 員 持 株 会	237,400	2.41
日 本 マ ス タ ー ト ラ ス ト 信 託 銀 行 株 式 会 社 (信 託 口)	208,200	2.12
株 式 会 社 庚 伸	180,000	1.83
株 式 会 社 日 本 カ ス ト デ ィ 銀 行 (信 託 口)	155,300	1.58

- (注) 1. 持株比率は自己株式(2,408株)を控除して計算しております。
 2. 自己株式には、役員向け株式交付信託制度の信託財産として、株式会社日本カストディ銀行が保有する当社株式130,000株は含まれておりません。
 3. 持株比率は表示単位未満を切り捨てて表示しております。
- ⑥ 当事業年度中に職務執行の対価として当社役員に交付した株式の状況
 該当事項はありません。
- ⑦ その他株式に関する重要な事項
 該当事項はありません。

(2) 会社役員 の 状況

① 取締役及び監査役の状況（2022年12月31日現在）

会社における地位	氏名	担当及び重要な兼職の状況
取締役会長（代表取締役）	玉田宏一	株式会社リステック 取締役 株式会社みらくる 代表取締役社長 マルチネット株式会社 取締役 株式会社TMD 取締役
取締役社長（代表取締役）	望月真貴子	株式会社みらくる 取締役
取締役	江守裕樹	管理統括部 管掌 販売推進統括部 管掌 株式会社みらくる 監査役 株式会社リステック 監査役 マルチネット株式会社 監査役
取締役	松村雅浩	マーケティング営業統括部 管掌
取締役	田邊浩明	営業統括部 管掌
取締役	宮澤敏	株式会社庚伸 代表取締役 株式会社バルディア 社外取締役 コウシン・ベトナム有限会社 CEO 株式会社オプロ 社外取締役
取締役	栞原桂一	
取締役	那須慎二	株式会社CISO 代表取締役
常勤監査役	佐藤亨	
監査役	若林和子	みなとアドバイザーズ株式会社 代表取締役
監査役	堀川裕美	

- (注) 1. 取締役宮澤敏氏、取締役栞原桂一氏及び取締役那須慎二氏は、社外取締役であります。
2. 常勤監査役佐藤亨氏、監査役若林和子氏及び監査役堀川裕美氏は、社外監査役であります。

3. 監査役若林和子氏は、公認会計士・税理士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。
4. 監査役堀川裕美氏は、弁護士の資格を有しており、企業法務及び法律に関する相当程度の知見を有しております。
5. 当社は取締役宮澤敏氏、取締役栞原桂一氏及び取締役那須慎二氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同証券取引所に届け出ております。
6. 当社は常勤監査役佐藤亨氏、監査役若林和子氏及び監査役堀川裕美氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同証券取引所に届け出ております。
7. 当事業年度中における取締役の担当等の異動は次のとおりであります。

氏 名	異動前	異動後	異動年月日
江 守 裕 樹	取締役 管理統括部 副統括部長 兼 経営企画室長 兼 事業企画室長	取締役 管理統括部 統括部長 兼 経営企画室長 兼 事業企画室長	2022年1月1日
	取締役 管理統括部 統括部長 兼 経営企画室長 兼 事業企画室長	取締役 管理統括部 統括部長 兼 事業企画室長	2022年4月1日
	取締役 管理統括部 統括部長 兼 事業企画室長	取締役 管理統括部 管掌 販売推進統括部 管掌	2022年7月16日
松 村 雅 浩	取締役	取締役 マーケティング営業統括部 管掌	2022年7月16日
田 邊 浩 明	取締役 管理統括部 統括部長	取締役 販売推進統括部 統括部長	2022年1月1日
	取締役 販売推進統括部 統括部長	取締役 営業統括部 管掌	2022年7月16日

② 事業年度中に退任した取締役及び監査役

氏名	退任日	退任理由	退任時の地位・担当及び重要な兼職の状況
谷 眞 人	2022年6月21日	辞任	社外監査役

③ 責任限定契約の内容の概要

当社と各社外取締役及び各社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、社外取締役は500万円または法令が規定する額のいずれか高い額、社外監査役は500万円または法令が規定する額のいずれか高い額としております。なお、当該社外取締役または社外監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

④ 役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、被保険者が負担することになる会社役員としての業務の遂行に起因して、損害賠償請求がなされることによって会社役員が被る経済的損害を当該保険契約により填補することとしております。ただし、贈収賄などの犯罪行為や意図的に違法行為を行った対象者自身の損害等は補償対象外とすることにより、役員等の職務の執行の適正性が損なわれないように措置を講じています。当該保険契約の被保険者は当社及び子会社の取締役及び監査役であります。なお、すべての被保険者について、その保険料を当社が全額負担しております。当該保険契約は毎年9月1日に更新しており、次回更新時には同内容での更新を予定しております。

⑤ 取締役及び監査役の報酬等

(1) 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

イ 当社は、取締役の個人別の報酬の額又はその算定方法の決定に関する方針を取締役会決議で定めております。当該決議についてはあらかじめ任意の指名報酬委員会へ諮問し、答申を受けております。また、取締役会は、当事業年度に係る個人別の報酬等について、報酬の内容の決定方法および決定された報酬等の内容が取締役会で決議された決定方針と整合していることや、任意の報酬委員会からの答申が尊重されていることを確認しており、当該決定方針に沿うものであると判断しております。

なお、社外取締役の報酬については、その役割と独立性の観点から定額報酬としております。また、監査役の報酬については株主総会で決議いただいた報酬限度額の範囲内で監査役の協議により決定します。

ロ 取締役の個人の報酬等の内容に係る決定方針の内容は次の通りです。

・基本報酬に関する方針

当社の経営理念である「ユーザーニーズ実現企業」を牽引する優秀な人財を登用することを目的に、それぞれの職責および役割、企業業績、世間動向に応じた適切な報酬水準、報酬体系を考慮し、支給額を決定するものとしています。

・業績連動報酬に関する方針

取締役（社外取締役を除く）の役位に応じて設定される基準額に、各事業年度の連結売上高、連結営業利益等の指標をそれぞれウエイト付けした上で計数化し、固定の金銭報酬である固定報酬に乗じた額を基準として支給するものとします。当該指標を選択した理由は、経営計画における業績目標であるため、指標に採用しております。

・非金銭報酬等に関する方針

経営責任と役割に応じた固定報酬に加え、非金銭報酬として株式交付信託制度を導入しております。本制度は、当社が金銭を拠出することにより設定する信託が当社株式を取得し、当社が各役員に付与するポイントの数に相当する数の当社株式が本信託を通じて各役員に対して交付される制度です。なお、役員が当社株式の交付を受ける時期は、原則として役員の退任時です。

・報酬の割合に関する方針

金銭報酬である固定報酬および業績連動報酬の割合は、総報酬額の80：20になるものとしております。

・報酬等の交付時期等に関する方針

固定報酬は、月例の固定金銭報酬と業績連動報酬を定期同額給与として支給し、非金銭報

酬等である株式交付信託は、毎月末の割当日に取締役（社外取締役を除く）に付与するものとします。

・報酬等の決定の委任に関する方針

各取締役に支給する月例の固定金銭報酬である固定報酬および業績連動報酬については、取締役会決議に基づき、代表取締役社長に具体的内容の決定を委任するものとしておりましたが、暦年2022年の基本報酬および業績連動報酬より、任意の報酬委員会での審議を受けた取締役の個人別の報酬等を取締役に答申し、当該金額をもって取締役会にて決定する方針に改めております。当事業年度におきましては、各取締役に対する評価を基に、代表取締役社長と社外取締役による検討を経て報酬案を作成し、任意の指名報酬委員会へ諮問し、答申を受けて、2021年3月23日開催の取締役会において株主総会で決議いただいた報酬限度額の範囲内で報酬を決議しております。

・上記の他報酬等の決定に関する事項

非金銭報酬等として支給する株式交付信託については、取締役に非違行為があった場合など、本割当契約等で定める一定に事由に該当した場合には、会社は本割当株式の全部又は一部を当然に無償で取得するものとします。

ハ 個人別の報酬等の内容の決定の方法

代表取締役社長が、代表取締役社長に一任するとの取締役会決議のもと、当社の業績等を踏まえ、株主総会で決議した報酬等の総額の範囲内において、各取締役の役位、職責等に応じて決定しておりましたが、暦年2022年の固定報酬および業績連動報酬より、任意の報酬委員会での審議を受けた取締役の個人別の報酬等を取締役に答申し、当該金額をもって取締役会にて決定する方針に改めております。監査役報酬については、1996年5月31日開催の第6回定時株主総会において決議された年額50百万円の範囲内において、その配分については、監査役の協議により決定しております。

ニ 役員報酬等に関する株主総会決議について

当社取締役の報酬限度額は、1996年5月31日開催の第6回定時株主総会において、年額200百万円以内（ただし、使用人分給与は含まない。）とご承認いただいております。また別枠で、2019年3月27日開催の第29回定時株主総会において、株式報酬制度の導入についてご承認いただいております。

(2) 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬との総額 (千円)	報酬等の種類別の総額 (千円)				対象となる 役員の員数 (名)
		固 定 報 酬	業 績 連 動 報 酬	株 式 交 付 信 託	左記のうち、非 金 銭 報 酬 等	
取 締 役 (うち社外取締役)	91,567 (9,000)	82,589 (9,000)	- (-)	8,978 (-)	8,978 (-)	8 (3)
監 査 役 (うち社外監査役)	13,740 (13,740)	13,740 (13,740)	- (-)	- (-)	- (-)	4 (4)
合 計 (うち社外役員)	105,307 (22,740)	96,329 (22,740)	- (-)	8,978 (-)	8,978 (-)	12 (7)

(注) 1. 上記には、2022年6月21日開催の第32回定時株主総会の終結の時をもって退任した監査役1名を含んでおります。

2. 取締役の報酬等の額には、使用人兼務役員の使用人分給与は含まれておりません。

3. 当事業年度における業績連動報酬に係る指標の目標は、連結売上高及び連結営業利益でしたが、実績は連結売上高10,599百万円(計画比3.6%減)、連結営業損失45百万円(計画営業利益5百万円)となり、各指標とも業績連動報酬支給の最低基準を下回ったことから、当該事業年度に係る取締役の業績連動報酬の支給はありません。

4. 非金銭報酬等の内容は株式交付信託を利用した株式報酬制度であり、割当ての際の方針等は「⑤(1)ロ・非金銭報酬等に関する方針」のとおりであります。なお、役員が当社株式の交付を受ける時期は、原則として役員退任時となります。

株式報酬制度について

・株式取得資金として拠出される信託金の上限額

当社は、対象期間中に、信託を用いた株式報酬制度により当社株式を取締役に交付するのに必要な当社株式の取得資金として、合計金480百万円を上限とする金銭を対象期間中に在任する取締役に対する報酬として拠出し、一定の要件を満たす取締役を受益者として信託を用いた株式報酬制度を設定しております。

・取締役に交付される当社株式の上限

当社が取締役に対して付与するポイントの総数は、1事業年度あたり65,000ポイント(65,000株)を上限としております。

5. 取締役の報酬限度額は、1996年5月31日開催の第6回定時株主総会において、年額200百万円以内(ただし、使用人分給与は含まない。)と決議いただいております。当該株主総会終結時点の取締役の員数は、6名(うち、社外取締役一名)です。また別枠で、2019年3月27日開催の第29回定時株主総会において、株式報酬制度を導入することについて決議いただいております。株式報酬制度の金額やポイント(株式数)の上限については、上記(注)4に記載のとおりです。当該株主総会終結時点の取締役(社外取締役を除く)の員数は、5名です。

6. 監査役の報酬限度額は、1996年5月31日開催の第6回定時株主総会において、年額50百万円以内と決議いただいております。当該株主総会終結時点の監査役の員数は、1名です。

7. 各取締役に対する評価を基に、代表取締役社長と社外取締役による検討を経て報酬案を作成し、任意の指名報酬委員会へ諮問し、答申を受けて、取締役会において株主総会で決議いただ

いた報酬限度額の範囲内で報酬を決議しております。

任意の指名報酬委員会の構成

社外	取締役	宮澤 敏・栗原 桂一・那須 慎二
社内	取締役	玉田 宏一・望月 真貴子

(注) 任意の指名報酬委員会の委員長は、任意の指名報酬委員会の決議により社外取締役のうち1名を選任します。

- ⑥ 提出会社の役員ごとの報酬等の総額等
報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

- ⑦ 使用人兼務役員の使用人分給与のうち、重要なもの

総額 (千円)	対象役員数 (名)	内容
12,414	3	使用人兼務役員の使用人部分の給与

- ⑧ 社外役員に関する事項

イ. 他の法人等の重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係

- ・取締役宮澤敏氏は、株式会社庚伸の代表取締役であります。当社は同社との間に製品の販売等の取引関係があります。また、株式会社パルディア、株式会社オプロの社外取締役並びにコウシン・ベトナム有限会社のCEOを兼職しておりますが、当社と各兼職先との間には特別の関係はありません。
- ・取締役那須慎二氏は、株式会社CISOの代表取締役であります。当社は同社との間にセキュリティ診断の提供に関する代理店業務等に関する取引があります。
- ・監査役若林和子氏は、みなとアドバイザーズ株式会社の代表取締役であります。当社と兼職先との間に特別の取引関係はありません。

ロ. 当事業年度における主な活動状況

		出席状況、発言状況及び 社外取締役にて期待される役割に関して行った職務の概要
社外取締役	宮澤 敏	当事業年度に開催された取締役会33回のうち32回に出席いたしました。情報・通信業での経営者としての見識とその豊富な企業経験を踏まえ立場から監督、助言等を行うなど取締役会において、妥当性・適正性を確保するための適切な役割を果たしております。
社外取締役	榎原 桂一	当事業年度に開催された取締役会33回のうち31回に出席いたしました。コンピュータ業界におけるその豊富な経験と幅広い見識で経営陣を補佐、事業活動の円滑な遂行を行った実績から、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。
社外取締役	那須 慎二	当事業年度に開催された取締役会33回のうち28回に出席いたしました。セキュリティコンサルタント業における経営者として優れた見識と経験から、経営者としてのバランス感覚を活かし、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。
社外（常勤） 監査役	佐藤 亨	当事業年度に開催された取締役会33回のうち33回、監査役会16回のうち16回に出席いたしました。コンピュータ販売業界における豊富な経験と幅広い見識を踏まえ、取締役会及び監査役会において、適宜必要な発言を行っております。
社外監査役	若林 和子	当事業年度に開催された取締役会33回のうち32回、監査役会16回のうち16回に出席いたしました。公認会計士・税理士としての専門的見地から、取締役会及び監査役会において、適宜必要な発言を行っております。
社外監査役	堀川 裕美	2022年6月21日就任以降、当事業年度に開催された取締役会16回のうち15回、監査役会7回のうち7回に出席いたしました。弁護士としての専門的見地から、企業法務に精通しており、取締役会及び監査役会において、適宜必要な発言を行っております。

(3) 会計監査人の状況

① 名称 EY新日本有限責任監査法人

② 報酬等の額

	報酬等の額
当事業年度に係る会計監査人としての報酬等の額	126,931千円
当社及び子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額	126,931千円

(注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬の額を区分しておらず、実質的にも区別できませんので、事業年度に係る会計監査人としての報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。

2. 監査役会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りの算出根拠などが適切であるかどうかについて必要な検証を行ったうえで会計監査人の報酬等の額について同意の判断をいたしました。

③ 非監査業務の内容

該当事項はありません。

④ 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合など、その必要があると判断した場合は、会計監査人の解任または不再任に関する議案を決定し、取締役会は当該決定に基づき当該議案を株主総会の目的とすることといたします。

また、監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められ、かつ改善の見込みがないと判断した場合は、監査役全員の同意に基づき監査役会が、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任理由を報告いたします。

(4) 業務の適正を確保するための体制及び運用状況の概要

1. 取締役会における決議の内容の概要

取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他会社の業務の適正を確保するための体制について、取締役会における決議内容の概要は以下のとおりであります。

① 取締役・使用人の職務執行が法令・定款に適合することを確保するための体制

取締役を含む役職員が遵守すべき規範、とるべき行動の基準を示した「行動規範に関する補則」を当社グループ全職員に周知徹底させるとともに、必要に応じ、その内容を追加・修正することとする。また、「コンプライアンス規程」を制定し、当社グループ全役職員に徹底を図る。毎月1回以上開催する「経営会議」においては、当社及び子会社の会社運営における重要事項を検討する。監査役及び内部監査室は、当社及び子会社の業務活動の妥当性やコンプライアンスの状況などについて監査を実施し、適切な連携関係を維持しながら、業務の改善に向けた助言・勧告を行う。

② 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の意思決定または取締役に対する報告に対しては、「取締役会規程」、「文書管理規程」、「稟議規程」の定めるところに従い、取締役会の議事録、稟議決裁書等を作成し、適切に保存かつ管理を行う。

③ 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社グループの企業活動に関連する様々なリスクに対処するために、「職務分掌権限規程」や「業務分掌規程」、その他の社内規程に従い、取締役が担当の分掌範囲について責任を持ってリスク管理体制を構築する。リスク管理の観点から重要事項については、取締役会の決議により規程の制定、改廃を行う。また、当社及び子会社の連携により、当社グループ全体のリスク管理を行う。

④ 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役会は、毎月1回、定時取締役会を開催するほか、必要に応じて取締役会を開催し、活発な議論を通じて経営上の意思決定を行う。取締役会の機能をより強化し経営効率を向上させるため、取締役が出席する経営会議を毎月1回以上開催し、審議の上業務執行に関する基本的事項に係わる意思決定を機動的に行う。

- ⑤ 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制並びにその使用人の取締役からの独立性に関する事項
- イ. 監査役は、監査業務に必要な事項を経営企画室等に依頼することができ、監査役より監査業務に必要な依頼を受けた職員は、その依頼に関して取締役会の指揮命令を受けない。
 - ロ. 監査役より監査業務に必要な依頼を受けた職員に関する人事については、常勤監査役と協議を行い、独立性についても十分留意するものとする。
- ⑥ 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
- イ. 当社は、グループ会社管理の基本的な事項に関する諸規程を定め、グループ会社の内部統制及び業務執行を統括するとともに、現状の検証を行い、適切な監視体制及び報告体制を確保する。
 - ロ. 監査役は、子会社監査役と連携し、定期的の子会社取締役による業務執行状況を監査するほか、内部統制の整備及び運用状況を監視する。
 - ハ. 内部監査室は、当社及び子会社の監査役と連携し、当社グループ全体の業務執行の適法性、効率性の実施状況を監査する。
- ⑦ 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制
- イ. 監査役は、取締役会のほか、経営会議その他の重要な会議に出席するとともに、取締役からその職務の執行状況を聴取し、関係資料を閲覧し、意見を述べるができる。
 - ロ. 取締役及び使用人は、会社に重大な損失を与える事象が発生しまたは発生する恐れがあるとき、取締役及び使用人が違法または不正な行為を発見したとき、その他監査役が報告すべきものと定めた事象が発生したときは、監査役に報告する。
 - ハ. 当社は、当社及び子会社の監査役へ報告を行った当社及び子会社の取締役及び職員に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを行うことを禁止し、その旨を当社及び子会社の取締役及び職員に周知徹底する。
- ⑧ その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
- イ. 取締役会及び使用人は、監査役から会社情報の提供を求められたときは遅滞なく提供できるようにするなど、監査役監査の環境を整備するよう努める。
 - ロ. 監査役は、取締役社長との定期的な意見交換を開催し、併せて内部監査室との連携を図る。
 - ハ. 監査役が監査の実施にあたり、弁護士その他の外部専門家を任用するための費用の支出を求めた場合、当社は職務の執行に必要でない認められた場合を除き、その費用を負担する。

⑨ 反社会的勢力の排除に向けた体制

当社は、社会の秩序や企業の健全な活動に脅威を与える反社会的勢力に対しては、取引関係も含め一切の関係を持たない。その不当要求に対しては、法令及び社内規程に則り、所轄警察署、弁護士等の外部専門機関とも連携して、毅然とした姿勢で対応する。

⑩ 財務報告の信頼性を確保するための体制

当社は、金融商品取引法の定めに従い、健全な内部統制環境の保持に努める。また、有効かつ正当な評価ができるよう内部統制システムを構築し、適正な運用に努めることにより、財務報告の信頼性と適正性を確保する。

2. 業務の適正を確保する体制の運用状況の概要

当社のコーポレート・ガバナンスの充実に向けた最近1年間（当事業年度の末日から遡って1ヵ年）における実施状況は次のとおりであります。

- ① 取締役会を33回開催し、法令等に定められた事項や経営方針・予算の策定等経営に関する重要事項を決定し、月次の経營業績の分析・対策・評価を検討するとともに法令・定款等への適合性及び業務の適正性の観点から審議いたしました。また、取締役会でのさらなる審議の充実、効率化を図るため、各取締役に対し、取締役会全体の実効性を評価・分析するためのアンケートを行い、その結果明らかになった課題を、取締役会の運営改善に活かす取組みを行っております。
- ② 監査役会を16回開催し、監査方針、監査計画を協議決定し、重要な社内会議への出席、業務及び財産の状況の監査、取締役の職務執行の監査、法令・定款等への遵守について監査いたしました。
- ③ 財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に鑑み、策定した実施計画に基づき内部統制評価を実施いたしました。また、決算開示資料については、取締役会に付議したのち開示を行うことにより適正性を確保いたしました。
- ④ 情報セキュリティ対策として、個人情報を含めた会社の機密情報漏洩防止を目的とした社員教育を実施したほか、文書やデータの管理・廃棄方法のさらなる厳格化を図りました。
- ⑤ リスク管理の観点に基づき、大規模自然災害発生時における連絡体制及び初動体制を整備しております。

(5) **会社の支配に関する基本方針**

当社では、会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針については、特に定めておりません。

(6) **剰余金の配当等の決定に関する方針**

当社グループは、株主の皆様への利益還元を経営の重要政策と認識し、収益力の向上と財務体質の強化を図りながら、安定的かつ業績に見合う適正な配当を維持することを基本方針としております。

また、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うこととし、これらの剰余金の配当等の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

内部留保につきましては、経営基盤のさらなる強化に向けて、人材の確保・教育・育成、社内システムの高度化及び新規事業投資等に積極的に活用してまいりたいと考えております。

この方針に基づき、当期の期末配当につきましては、1株につき2円50銭とすることを予定しております。すでにお支払いしております中間配当1株につき4円50銭を合わせた年間配当は1株につき7円となります。

~~~~~  
(注) 本事業報告の記載数字は、金額については表示単位未満を切り捨て、比率及び1株当たり当期純利益又は当期純損失(△)、1株当たり純資産額については、表示単位未満を四捨五入しております(大株主(上位10名)の持株比率を除く)。

## 連結貸借対照表

(2022年12月31日現在)

(単位：千円)

| 科 目             | 金 額              | 科 目                | 金 額              |
|-----------------|------------------|--------------------|------------------|
| <b>(資産の部)</b>   |                  | <b>(負債の部)</b>      |                  |
| <b>流動資産</b>     | <b>6,504,530</b> | <b>流動負債</b>        | <b>3,757,847</b> |
| 現金及び預金          | 2,518,326        | 買掛金                | 2,588,814        |
| 受取手形及び売掛金       | 2,995,536        | 短期借入金              | 570,000          |
| 電子記録債権          | 73,560           | 1年内返済予定の長期借入金      | 220,800          |
| 商 品             | 681,624          | リース債務              | 5,767            |
| 仕 掛 品           | 59,410           | 未払法人税等             | 48,060           |
| そ の 他           | 180,484          | 賞与引当金              | 72,180           |
| 貸倒引当金           | △4,413           | そ の 他              | 252,224          |
| <b>固定資産</b>     | <b>620,643</b>   | <b>固定負債</b>        | <b>591,557</b>   |
| <b>有形固定資産</b>   | <b>8,560</b>     | 長期借入金              | 477,200          |
| 建 物             | 5,798            | 退職給付に係る負債          | 26,722           |
| 工具、器具及び備品       | 2,762            | 役員株式給付引当金          | 32,676           |
| <b>無形固定資産</b>   | <b>356,222</b>   | リース債務              | 17,543           |
| 顧客関係資産          | 343,000          | 繰延税金負債             | 2,283            |
| そ の 他           | 13,222           | 資産除去債務             | 34,603           |
| <b>投資その他の資産</b> | <b>255,860</b>   | そ の 他              | 528              |
| 投資有価証券          | 90,397           | <b>負債合計</b>        | <b>4,349,405</b> |
| 繰延税金資産          | 22,503           | <b>(純資産の部)</b>     |                  |
| そ の 他           | 219,653          | <b>株 主 資 本</b>     | <b>2,711,134</b> |
| 貸倒引当金           | △76,694          | 資 本 金              | 569,449          |
| <b>資 産 合 計</b>  | <b>7,125,173</b> | 資 本 剰 余 金          | 567,376          |
|                 |                  | 利 益 剰 余 金          | 1,634,111        |
|                 |                  | 自 己 株 式            | △59,803          |
|                 |                  | <b>その他の包括利益累計額</b> | <b>5,173</b>     |
|                 |                  | その他有価証券評価差額金       | 5,173            |
|                 |                  | <b>新株予約権</b>       | <b>59,460</b>    |
|                 |                  | <b>純資産合計</b>       | <b>2,775,768</b> |
|                 |                  | <b>負債純資産合計</b>     | <b>7,125,173</b> |

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

# 連結損益計算書

(2022年1月1日から  
2022年12月31日まで)

(単位：千円)

| 科 目                      | 金 額              |
|--------------------------|------------------|
| 売上高                      | 10,599,063       |
| 売上原価                     | 7,690,067        |
| 売上総利益                    | 2,908,996        |
| 販売費及び一般管理費               | 2,954,251        |
| 営業損失 (△)                 | △45,255          |
| 営業外収益                    |                  |
| 受取利息                     | 370              |
| 受取配当金                    | 2,181            |
| 広告料収入                    | 2,100            |
| 協賛金収入                    | 1,107            |
| その他                      | 96               |
| 営業外費用                    | 2,828            |
| 支払利息                     | 3,613            |
| 固定資産除却損                  | 417              |
| その他                      | 542              |
| 経常損失 (△)                 | △41,144          |
| 特別利益                     |                  |
| 新株予約権戻入益                 | 1,899            |
| 受取保険金                    | 51,425           |
| その他                      | 533              |
| 特別損失                     |                  |
| 減損損失                     | 120,230          |
| 過年度決算訂正関連費用              | 329,618          |
| その他                      | 1,000            |
| 税金等調整前当期純損失 (△)          | △438,135         |
| 法人税、住民税及び事業税法<br>法人税等調整額 | 65,500<br>△4,259 |
| 当期純損失 (△)                | △499,376         |
| 親会社株主に帰属する当期純損失 (△)      | △499,376         |

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結株主資本等変動計算書

(2022年1月1日から  
2022年12月31日まで)

(単位：千円)

|                           | 株 主 資 本 |         |           |         | 株主資本合計    |
|---------------------------|---------|---------|-----------|---------|-----------|
|                           | 資 本 金   | 資本剰余金   | 利益剰余金     | 自 己 株 式 |           |
| 当 期 首 残 高                 | 567,326 | 565,253 | 2,221,939 | △59,803 | 3,294,715 |
| 会計方針の変更による累積的影響           | -       | -       | -         | -       | -         |
| 会計方針の変更を反映した当期首残高         | 567,326 | 565,253 | 2,221,939 | △59,803 | 3,294,715 |
| 連結会計年度中の変動額               |         |         |           |         |           |
| 新株の発行（新株予約権の行使）           | 2,123   | 2,123   |           |         | 4,246     |
| 剰余金の配当                    |         |         | △88,451   |         | △88,451   |
| 親会社株主に帰属する当期純損失（△）        |         |         | △499,376  |         | △499,376  |
| 株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額） |         |         |           |         |           |
| 連結会計年度中の変動額合計             | 2,123   | 2,123   | △587,827  | -       | △583,581  |
| 当 期 末 残 高                 | 569,449 | 567,376 | 1,634,111 | △59,803 | 2,711,134 |

|                           | そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額   |                           | 新 株 予 約 権 | 純 資 産 合 計 |
|---------------------------|-------------------------|---------------------------|-----------|-----------|
|                           | そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金 | そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額 合 計 |           |           |
| 当 期 首 残 高                 | 2,721                   | 2,721                     | 65,588    | 3,363,025 |
| 会計方針の変更による累積的影響           | -                       | -                         | -         | -         |
| 会計方針の変更を反映した当期首残高         | 2,721                   | 2,721                     | 65,588    | 3,363,025 |
| 連結会計年度中の変動額               |                         |                           |           |           |
| 新株の発行（新株予約権の行使）           |                         |                           | △4,228    | 18        |
| 剰余金の配当                    |                         |                           |           | △88,451   |
| 親会社株主に帰属する当期純損失（△）        |                         |                           |           | △499,376  |
| 株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額） | 2,452                   | 2,452                     | △1,899    | 552       |
| 連結会計年度中の変動額合計             | 2,452                   | 2,452                     | △6,128    | △587,257  |
| 当 期 末 残 高                 | 5,173                   | 5,173                     | 59,460    | 2,775,768 |

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。



# 貸借対照表

(2022年12月31日現在)

(単位：千円)

| 科 目             | 金 額              | 科 目            | 金 額              |
|-----------------|------------------|----------------|------------------|
| <b>(資産の部)</b>   |                  | <b>(負債の部)</b>  |                  |
| <b>流動資産</b>     | <b>5,723,752</b> | <b>流動負債</b>    | <b>3,569,654</b> |
| 現金及び預金          | 1,999,514        | 買掛金            | 2,529,208        |
| 受取手形            | 25,746           | 短期借入金          | 570,000          |
| 売掛金             | 2,843,485        | 1年内返済予定の長期借入金  | 220,800          |
| 電子記録債権          | 73,222           | リース債務          | 5,767            |
| 商品              | 561,365          | 未払金            | 84,113           |
| 仕掛品             | 10,892           | 未払法人税等         | 7,197            |
| 貯蔵品             | 982              | 未払費用           | 74,207           |
| 前渡金             | 2,196            | 前受金            | 4,751            |
| 前払費用            | 45,862           | 預り金            | 21,347           |
| その他             | 164,897          | 賞与引当金          | 52,261           |
| 貸倒引当金           | △4,413           | <b>固定負債</b>    | <b>558,596</b>   |
| <b>固定資産</b>     | <b>1,032,401</b> | 長期借入金          | 477,200          |
| <b>有形固定資産</b>   | <b>752</b>       | リース債務          | 17,543           |
| 建物              | 410              | 役員株式給付引当金      | 32,676           |
| 工具、器具及び備品       | 341              | 繰延税金負債         | 2,283            |
| <b>無形固定資産</b>   | <b>352,738</b>   | 資産除去債務         | 28,364           |
| 顧客関係資産          | 343,000          | その他            | 528              |
| その他             | 9,738            | <b>負債合計</b>    | <b>4,128,250</b> |
| <b>投資その他の資産</b> | <b>678,910</b>   | <b>(純資産の部)</b> |                  |
| 投資有価証券          | 90,397           | <b>株主資本</b>    | <b>2,563,269</b> |
| 関係会社株式          | 446,603          | 資本金            | 569,449          |
| 出資金             | 10,000           | 資本剰余金          | 567,376          |
| 関係会社長期貸付金       | 65,500           | 資本準備金          | 519,461          |
| 破産更生債権等         | 76,694           | その他資本剰余金       | 47,914           |
| 敷金              | 76,323           | <b>利益剰余金</b>   | <b>1,486,246</b> |
| その他             | 35,685           | 利益準備金          | 2,607            |
| 貸倒引当金           | △122,294         | その他利益剰余金       | 1,483,638        |
| <b>資産合計</b>     | <b>6,756,153</b> | 繰越利益剰余金        | 1,483,638        |
|                 |                  | <b>自己株式</b>    | <b>△59,803</b>   |
|                 |                  | 評価・換算差額等       | 5,173            |
|                 |                  | その他有価証券評価差額金   | 5,173            |
|                 |                  | 新株予約権          | 59,460           |
|                 |                  | <b>純資産合計</b>   | <b>2,627,903</b> |
|                 |                  | <b>負債純資産合計</b> | <b>6,756,153</b> |

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

# 損益計算書

(2022年1月1日から  
2022年12月31日まで)

(単位：千円)

| 科 目          | 金 額       |
|--------------|-----------|
| 売上高          | 9,489,710 |
| 売上原価         | 7,013,653 |
| 売上総利益        | 2,476,056 |
| 販売費及び一般管理費   | 2,656,077 |
| 営業損失(△)      | △180,021  |
| 営業外収益        |           |
| 受取利息及び配当金    | 31,151    |
| 広告料収入        | 2,100     |
| 受取手数料        | 9,490     |
| 経営指導料        | 7,140     |
| 貸倒引当金戻入益     | 5,528     |
| その他          | 3,494     |
| 営業外費用        |           |
| 支払利息         | 3,613     |
| 固定資産除却損      | 417       |
| その他          | 205       |
| 経常損失(△)      | 4,235     |
| 特別利益         | △125,352  |
| 新株予約権戻入益     | 1,899     |
| 受取保険金        | 51,425    |
| 特別損失         |           |
| 減損損失         | 120,230   |
| 過年度決算訂正関連費用  | 329,618   |
| 税引前当期純損失(△)  | 449,848   |
| 法人税、住民税及び事業税 | 8,730     |
| 当期純損失(△)     | △521,876  |
|              | 8,730     |
|              | △530,606  |

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

## 株主資本等変動計算書

(2022年1月1日から  
2022年12月31日まで)

(単位：千円)

|                             | 株 主 資 本 |         |              |             |       |                             |             |         |           |
|-----------------------------|---------|---------|--------------|-------------|-------|-----------------------------|-------------|---------|-----------|
|                             | 資本金     | 資本剰余金   |              |             | 利益剰余金 |                             |             | 自己株式    | 株主資本合計    |
|                             |         | 資本準備金   | その他<br>資本剰余金 | 資本剰余金<br>合計 | 利益準備金 | その他<br>利益剰余金<br>繰越利益<br>剰余金 | 利益剰余金<br>合計 |         |           |
| 当 期 首 残 高                   | 567,326 | 517,338 | 47,914       | 565,253     | 2,607 | 2,102,696                   | 2,105,304   | △59,803 | 3,178,080 |
| 会計方針の変更による<br>累 積 的 影 響 額   | -       | -       | -            | -           | -     | -                           | -           | -       | -         |
| 会計方針の変更を反映した<br>当 期 首 残 高   | 567,326 | 517,338 | 47,914       | 565,253     | 2,607 | 2,102,696                   | 2,105,304   | △59,803 | 3,178,080 |
| 事業年度中の変動額                   |         |         |              |             |       |                             |             |         |           |
| 新株の発行(新株予約<br>権の行使)         | 2,123   | 2,123   |              | 2,123       |       |                             |             |         | 4,246     |
| 剰余金の配当                      |         |         |              |             |       | △88,451                     | △88,451     |         | △88,451   |
| 当期純損失(△)                    |         |         |              |             |       | △530,606                    | △530,606    |         | △530,606  |
| 株主資本以外の項目の事<br>業年度中の変動額(純額) |         |         |              |             |       |                             |             |         |           |
| 事業年度中の変動額合計                 | 2,123   | 2,123   | -            | 2,123       | -     | △619,057                    | △619,057    | -       | △614,811  |
| 当 期 末 残 高                   | 569,449 | 519,461 | 47,914       | 567,376     | 2,607 | 1,483,638                   | 1,486,246   | △59,803 | 2,563,269 |

|                             | 評価・換算差額等     |            | 新株予約権  | 純資産合計     |
|-----------------------------|--------------|------------|--------|-----------|
|                             | その他有価証券評価差額金 | 評価・換算差額等合計 |        |           |
| 当 期 首 残 高                   | 2,721        | 2,721      | 65,588 | 3,246,390 |
| 会計方針の変更による<br>累 積 的 影 響 額   | -            | -          | -      | -         |
| 会計方針の変更を反映した<br>当 期 首 残 高   | 2,721        | 2,721      | 65,588 | 3,246,390 |
| 事業年度中の変動額                   |              |            |        |           |
| 新株の発行(新株予約<br>権の行使)         |              |            | △4,228 | 18        |
| 剰余金の配当                      |              |            |        | △88,451   |
| 当期純損失(△)                    |              |            |        | △530,606  |
| 株主資本以外の項目の事<br>業年度中の変動額(純額) | 2,452        | 2,452      | △1,899 | 552       |
| 事業年度中の変動額合計                 | 2,452        | 2,452      | △6,128 | △618,487  |
| 当 期 末 残 高                   | 5,173        | 5,173      | 59,460 | 2,627,903 |

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

# 連結計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

2023年2月27日

株式会社ハイパー  
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人  
東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 石 井 広 幸

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 野 田 裕 一

### 監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、株式会社ハイパーの2022年1月1日から2022年12月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ハイパー及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結計算書類に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結計算書類の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結計算書類又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 連結計算書類に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められてい

る。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結計算書類に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

# 計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

2023年2月27日

株式会社ハイパー  
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人  
東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 石 井 広 幸

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 野 田 裕 一

### 監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社ハイパーの2022年1月1日から2022年12月31日までの第33期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 計算書類等に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。



- ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

## 監査役会の監査報告

### 監 査 報 告 書

当監査役会は、2022年1月1日から2022年12月31日までの第33期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

(1) 監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

(2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門、その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに以下の方法で監査を実施しました。

① 取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。

② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。なお、2021年度に発生したオフィスデザインの役務提供取引における不適切な売上処理の事案を踏まえた当社内部統制の強化につきましては、必要な施策を継続的に実行していること、また、内部統制システムの整備と運用につき、継続的に改善が図られることを確認しております。

③ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための

体制」(会社計算規則第131条各号に掲げる事項)を「監査に関する品質管理基準」(平成17年10月28日企業会計審議会)等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類(貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表)及びその附属明細書並びに連結計算書類(連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表)について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人EY新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人EY新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2023年2月28日

株式会社ハイパー 監査役会

常勤監査役(社外監査役)佐藤 亨

監査役(社外監査役)若林 和子

監査役(社外監査役)堀川 裕美

以上

## 株主総会参考書類

### 第1号議案 剰余金処分の件

剰余金処分につきましては、以下のとおりといたしたいと存じます。

#### 1. 期末配当に関する事項

第33期の期末配当につきましては、当期の業績並びに今後の事業展開等を勘案いたしまして以下のとおりといたしたいと存じます。

- ① 配当財産の種類  
金銭といたします。
- ② 配当財産の割当てに関する事項及びその総額  
当社普通株式1株につき金2円50銭といたしたいと存じます。  
なお、この場合の配当総額は24,576,230円となります。
- ③ 剰余金の配当が効力を生じる日  
2023年3月24日といたしたいと存じます。

#### 2. その他の剰余金の処分に関する事項

該当事項はございません。

## 第2号議案 取締役7名選任の件

取締役8名全員が本総会終結の時をもって任期満了となります。つきましては、経営機構改革を実施し、取締役会において戦略的かつ機動的に意思決定が行えるよう1名減員し、取締役7名の選任をお願いするものであります。

取締役候補者は次のとおりであります。

### 取締役候補一覧

| 候補者番号 |    | ふりがな<br>氏名             | 現在の当社における<br>地位及び担当           | 候補者属性      |
|-------|----|------------------------|-------------------------------|------------|
| 1     | 再任 | たま だ ひろ かず<br>玉 田 宏 一  | 代表取締役会長                       |            |
| 2     | 再任 | もち づき まき こ<br>望 月 真貴子  | 代表取締役社長                       |            |
| 3     | 再任 | え もり ひろ き<br>江 守 裕 樹   | 取締役<br>管理統括部 管掌<br>販売推進統括部 管掌 |            |
| 4     | 再任 | た なべ ひろ あき<br>田 邊 浩 明  | 取締役<br>営業統括部 管掌               |            |
| 5     | 再任 | みや ざわ さとる<br>宮 澤 敏     | 社外取締役                         | 社外取締役 独立役員 |
| 6     | 再任 | くわ ばら けい いち<br>栞 原 桂 一 | 社外取締役                         | 社外取締役 独立役員 |
| 7     | 再任 | な す しん じ<br>那 須 慎 二    | 社外取締役                         | 社外取締役 独立役員 |

| 候補者番号                                                                                                                                                         | 氏名<br>(生年月日)                                                                                                                                         | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 所有する<br>当社の<br>株式の数 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|
| 1                                                                                                                                                             | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">再任</div> たま だ ひろ かず<br><b>玉田 宏一</b><br>(1964年2月26日生)  | 1986年4月 新日本工販株式会社(現株式会社フォーバル)入社<br>1992年1月 当社入社<br>1992年4月 取締役<br>1996年4月 常務取締役<br>2008年3月 取締役副社長<br>2009年4月 代表取締役社長<br>2012年4月 株式会社リステック 代表取締役<br>2013年3月 株式会社らくさあ 代表取締役<br>2016年1月 株式会社みらくる 取締役<br>2017年7月 マルチネット株式会社 取締役(現任)<br>2018年1月 株式会社セキュリティア 代表取締役<br>2018年3月 株式会社リステック 取締役(現任)<br>2018年5月 株式会社リステック 取締役会長<br>2018年8月 株式会社TMD 取締役(現任)<br>2021年3月 代表取締役会長(現任)<br>2022年3月 株式会社みらくる 代表取締役社長(現任)<br><br>[重要な兼職の状況]<br>株式会社リステック 取締役<br>株式会社みらくる 代表取締役社長<br>マルチネット株式会社 取締役<br>株式会社TMD 取締役 | 1,310,500株          |
| (取締役候補者とした理由)<br>当社及び当社グループ会社の取締役として長年に亘りグループ全体の経営の指揮を執り、企業価値の向上に貢献しております。その実績、能力、コンピュータ業界における長い経験と企業経営者としての豊富な経験とともに人格、見識とも優れていることから、引続き取締役候補者いたしました。        |                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                     |
| 2                                                                                                                                                             | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">再任</div> もち づき まき こ<br><b>望月 真貴子</b><br>(1971年9月24日生) | 1995年11月 当社入社<br>2007年1月 営業企画部長<br>2008年5月 販売推進統括部長<br>2011年1月 購買部長<br>2013年4月 執行役員<br>2014年3月 取締役<br>2015年7月 営業統括部長<br>2017年7月 販売推進統括部長<br>2018年3月 常務取締役<br>2020年3月 代表取締役副社長<br>2021年3月 代表取締役社長(現任)<br>2022年3月 株式会社みらくる 取締役(現任)<br><br>[重要な兼職の状況]<br>株式会社みらくる 取締役                                                                                                                                                                                                                             | 132,000株            |
| (取締役候補者とした理由)<br>当社で販売推進部門及び営業部門の責任者を務めるなど豊富な経験と幅広い見識を有し、2014年3月より当社の取締役、2021年3月より取締役社長を務めており、今後さらに当社グループの中長期的な企業価値向上を強力に推進するために適切な人材であると判断し、引続き取締役候補者いたしました。 |                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                     |

| 候補者番号                                                                                                                                                                     | 氏名<br>(生年月日)                                                                                                                 | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 所有する<br>当社の<br>株式の数 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|
| 3                                                                                                                                                                         | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">再任</div><br>え もり ひろ き<br>江 守 裕 樹<br>(1972年8月26日生) | 1995年3月 当社入社<br>2008年5月 経営企画室長<br>2010年7月 総務・経営企画統括部長<br>2011年4月 執行役員<br>2012年1月 管理統括部長<br>2012年3月 取締役(現任)<br>2013年3月 株式会社らくさあ 監査役<br>2013年4月 経営企画室長<br>2014年7月 経理部長<br>2015年3月 株式会社リステック 監査役<br>2015年5月 事業企画室長<br>2016年1月 株式会社みらくる 代表取締役<br>2021年3月 株式会社みらくる 取締役<br>2021年4月 管理統括部 副統括部長<br>経営企画室長<br>2022年1月 管理統括部長<br>2022年3月 マルチネット株式会社 監査役(現任)<br>株式会社リステック 監査役(現任)<br>株式会社みらくる 監査役(現任)<br>2022年7月 管理統括部 管掌(現任)<br>販売推進統括部 管掌(現任)<br>[重要な兼職の状況]<br>株式会社リステック 監査役<br>株式会社みらくる 監査役<br>マルチネット株式会社 監査役 | 26,900株             |
| (取締役候補者とした理由)<br>当社で営業部門を経験し、総務・経営企画部門及び経理部門の責任者を務めるなど、豊富な経験・実績・見識を有し、2012年3月より当社の取締役を務めており、豊富な実務経験を生かして当社グループの中長期的な経営基盤を確立させ、企業価値向上に貢献するものと判断し、引続き取締役候補者いたしました。          |                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                     |
| 4                                                                                                                                                                         | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">再任</div><br>た なべ ひろ あき<br>田 邊 浩 明<br>(1976年4月2日生) | 2002年8月 当社入社<br>2012年1月 業務部長<br>2014年7月 執行役員<br>2014年10月 管理統括部 副統括部長<br>経営企画室長<br>業務部長<br>2016年1月 管理統括部長<br>2016年1月 株式会社みらくる 監査役<br>2016年3月 株式会社リステック 監査役<br>2017年3月 取締役(現任)<br>2017年7月 マルチネット株式会社 監査役<br>2018年1月 株式会社セキュリティア 監査役<br>2019年7月 情報システム室長<br>2022年1月 販売推進統括部長<br>2022年7月 営業統括部 管掌(現任)                                                                                                                                                                                                      | 9,100株              |
| (取締役候補者とした理由)<br>当社で営業部門及び購買部門を経験し、経営企画部門及び管理部門の責任者を務めるなど、豊富な経験・実績・見識を有し、2017年3月より当社の取締役を務めており、長年の経験、実績と豊富な知見を活かし、当社グループの中長期的な業務基盤を確立させ企業価値向上に貢献するものと判断し、引続き取締役候補者いたしました。 |                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                     |

| 候補者番号                                                                                                                                                                                                              | 氏名<br>(生年月日)                                                                                                                              | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 所有する<br>当社の<br>株式の数 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|
| 5                                                                                                                                                                                                                  | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">再任</div><br><small>みやざわ さとる</small><br>宮澤 敏<br>(1964年2月7日生)    | 1985年3月 新日本工販株式会社 (現株式会社フォーバル) 入社<br>1993年2月 株式会社庚伸 代表取締役 (現任)<br>1995年3月 当社 取締役会長<br>1997年12月 株式会社バルディア 社外取締役 (現任)<br>2002年6月 株式会社ドムコス 代表取締役<br>2006年12月 コウシン・ベトナム有限会社 CEO (現任)<br>2015年3月 日本オプロ株式会社 (現株式会社オプロ)<br>社外取締役 (現任)<br>2016年3月 当社社外取締役 (現任)<br>[重要な兼職の状況]<br>株式会社庚伸 代表取締役<br>株式会社バルディア 社外取締役<br>コウシン・ベトナム有限会社 CEO<br>株式会社オプロ 社外取締役 | 30,000株             |
| (社外取締役候補者とした理由及び期待される役割の概要)<br>情報・通信業での経営者としての優れた見識と深い経験から、取締役に対する監督機能や経営全般に対する助言を通じ、取締役会の透明性、説明責任の向上に貢献していただくことを期待したためであります。また、その経験と見識から、社外取締役としての職務を適切に遂行していただけるものと判断し、引続き社外取締役候補者といたしました。                       |                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                     |
| 6                                                                                                                                                                                                                  | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">再任</div><br><small>くわばら けいいち</small><br>栗原 桂一<br>(1962年7月14日生) | 1986年4月 日本アイ・ビー・エム株式会社 入社<br>2000年7月 A T & T ジャパン株式会社 入社<br>同社マーケティングプロモーション、アライアンス<br>& ストラテジー 担当部長<br>同社ビジネス推進部 部長<br>2010年9月 株式会社IJJグローバルソリューションズ 入社<br>同社ソリューション営業推進部 部長<br>同社経営企画部 担当部長<br>2020年1月 行政書士 栗原桂一事務所 代表 (現任)<br>2021年3月 当社社外取締役 (現任)                                                                                          | -                   |
| (社外取締役候補者とした理由及び期待される役割の概要)<br>コンピュータ業界における豊富な経験と幅広い見識等を有しており、企業において全社的視点から経営陣を補佐、事業活動の円滑な遂行を行なった実績を活かして、健全かつ効率的な経営の推進についてご指導いただくことを期待したためであります。また、その豊富な経験と見識から、社外取締役としての職務を適切に遂行していただけるものと判断し、引続き社外取締役候補者といたしました。 |                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                     |



| 候補者番号                                                                                                                                                                                               | 氏名<br>(生年月日)                | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                           | 所有する<br>当社の<br>株式の数 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|
| 7                                                                                                                                                                                                   | 再任<br>那須慎二<br>(1976年9月28日生) | 1996年4月 株式会社三菱電機ビジネスシステム 入社<br>1997年8月 エプソン販売株式会社 入社<br>2009年2月 株式会社船井総合研究所 入社<br>2018年1月 同社ITオフィスグループ グループマネージャ<br>2018年7月 株式会社CISO設立 代表取締役(現任)<br>2021年3月 当社社外取締役(現任)<br>[重要な兼職の状況]<br>株式会社CISO 代表取締役 | -                   |
| (社外取締役候補者としての理由及び期待される役割の概要)<br>セキュリティコンサルタント業における経営者として優れた見識と経験を有しており、経営者としてのバランス感覚を活かして、健全かつ効率的な経営の推進についてご指導いただくことを期待したためであります。また、その豊富な経験と見識から、社外取締役としての職務を適切に遂行していただけるものと判断し、引続き社外取締役候補者といたしました。 |                             |                                                                                                                                                                                                         |                     |

- (注) 1. 候補者宮澤敏氏は株式会社庚伸の代表取締役であり、当社は同社との間に製品の販売等の取引関係があります。また、候補者那須慎二氏は株式会社CISOの代表取締役であり、セキュリティ診断の提供に関する代理店業務等に関する取引があります。その他の候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
2. 宮澤敏氏、栗原桂一氏及び那須慎二氏は、社外取締役候補者であります。
3. 宮澤敏氏、栗原桂一氏及び那須慎二氏は、現在、当社の社外取締役であります。各候補者の社外取締役としての在任期間は、本総会の終結の時をもって宮澤敏氏が7年、栗原桂一氏及び那須慎二氏が2年となります。
4. 当社は、宮澤敏氏、栗原桂一氏及び那須慎二氏との間で会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、500万円または法令が規定する額のいずれか高い額としており、各候補者の再任が承認された場合は、各氏との当該契約を継続する予定であります。
5. 当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、被保険者が負担することになる損害賠償請求訴訟における損害を当該保険契約により填補することとしております。各候補者が取締役を選任され就任した場合は、当該保険契約の被保険者となります。また、当該保険契約は次回更新時においても同内容で更新を予定しております。
6. 当社は、宮澤敏氏、栗原桂一氏及び那須慎二氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出ております。各候補者が再任された場合は、当社は引続き各氏を独立役員とする予定であります。
- なお、当社と、宮澤敏氏が代表取締役社長を務める株式会社庚伸との間には、製品の販売等に関する取引がありますが、同取引における同社向け取引高は、15百万円(直近の連結会計年度における連結売上高の0.15%未満)であるため、当社の事業運営に関する経営判断に影響を及ぼすおそれがなく、かつ株主の皆様との間に利益相反は生じるおそれはないと判断しております。
- また、那須慎二氏が代表取締役社長を務める株式会社CISOとの間には、セキュリティ診断の提供に関する代理店業務等に関する取引がありますが、同取引における同社向け取引高は、12百万円(直近の連結会計年度における連結売上高の0.11%未満)であるため、当社の事業運営に関する経営判断に影響を及ぼすおそれがなく、かつ株主の皆様との間に利益相反は生じるおそれはないと判断しております。

### 第3号議案 監査役1名選任の件

監査体制の強化を図るため、監査役を1名増員することといたしたく、監査役1名の選任をお願いするものであります。

なお、本議案に関しましては、監査役会の同意を得ております。

監査役候補者は次のとおりであります。

#### 監査役候補者一覧

| 氏名 |                   | 現在の当社における地位 | 候補者属性 |      |
|----|-------------------|-------------|-------|------|
| 新任 | おまたしんじ<br>小 俣 信 次 | —           | 社外監査役 | 独立役員 |

| ふりがな<br>氏名<br>(生年月日)              | 略歴、当社における地位<br>(重要な兼職の状況)                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                   | 所有する当社の株式の数 |
|-----------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| おまたしんじ<br>小 俣 信 次<br>(1963年6月24日) | 1987年4月<br>1996年10月<br><br>1999年8月<br><br>2004年4月<br>2006年4月<br><br>2009年4月<br>2016年4月<br>2019年4月<br>2020年4月<br>2021年4月 | 株式会社リクルート 入社<br>同社カーセンサー事業部 システム推進グループ<br>システムディレクター<br>ディーアイエスシステム販売株式会社 入社<br>同社技術部 課長<br>同社技術部 副部長<br>ダイワボウ情報システム株式会社 転籍<br>ディーアイエスシステム販売株式会社 出向<br>プロジェクト統括部 副部長<br>同社事業本部 副部長<br>同社総務部 副部長<br>同社総務部 上級専任<br>営業推進部 上級専任<br>ダイワボウ情報システム株式会社 帰任<br>総務部 上級専任(現在) | —           |

#### (社外監査役候補者とした理由)

小俣信次氏は、当社事業と関連の高い分における専門的な知識と経験を有しており、それらを社外監査役として当社の監査に活かしていただきたいためであります。

なお、同氏は直接会社の経営に関与された経験はありませんが、上記の理由により、当社の社外監査役としてその職務を適切に遂行できるものと判断しております。

注) 1. 候補者小俣信次氏と当社の間には、特別の利害関係はありません。

2. 小俣信次氏は、社外監査役候補者であります。

3. 当社は、小俣信次氏の選任が承認された場合、同氏との間で責任限定契約を締結する予定であります。当該責任限定契約の概要は、会社法第423条第1項の損害賠償責任について、職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、500万円または法令が規定す

る額のいずれか高い額を限度とするものであります。

4. 当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険を保険会社との間で締結し、被保険者が負担することになる損害賠償請求訴訟における損害を当該保険契約により填補することとしております。候補者が監査役に就任された場合は、当該保険契約の被保険者となります。また、当該保険契約は次回更新時においても同内容での更新を予定しております。
5. 小俣信次氏は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員の要件を満たしており、同氏の選任が承認された場合には、独立役員として指定する予定であります。

(ご参考)

本総会終結後の役員のスキルマトリックス

(注) 本招集ご通知記載の候補者を原案どおり全てご選任いただいた場合の各役員のスキルマトリックスは以下のとおりとなります。

| 氏名     | 当社における<br>地位       | スキル・経験 |              |    |                |                     |               |                    |    |
|--------|--------------------|--------|--------------|----|----------------|---------------------|---------------|--------------------|----|
|        |                    | 企業経営   | 財務<br>ファイナンス | 会計 | 法務<br>コンプライアンス | ガバナンス<br>リスクマネージメント | 営業<br>マーケティング | IT<br>セキュリティ<br>DX | MD |
| 望月 真貴子 | 代表取締役社長            | ●      |              |    |                |                     |               |                    | ●  |
| 玉田 宏一  | 代表取締役会長            | ●      |              |    |                |                     | ●             |                    |    |
| 江守 裕樹  | 取締役                |        | ●            |    |                |                     |               | ●                  |    |
| 田邊 浩明  | 取締役                |        |              |    |                |                     | ●             |                    | ●  |
| 宮澤 敏   | 取締役(社外)<br>独立役員    | ●      |              |    |                |                     |               |                    |    |
| 栗原 桂一  | 取締役(社外)<br>独立役員    |        |              |    |                | ●                   |               |                    |    |
| 那須 慎二  | 取締役(社外)<br>独立役員    |        |              |    |                |                     |               | ●                  |    |
| 佐藤 亨   | 監査役(常勤・<br>社外)独立役員 |        |              |    | ●              | ●                   |               |                    |    |
| 若林 和子  | 監査役(社外)<br>独立役員    |        | ●            | ●  |                |                     |               |                    |    |
| 堀川 裕美  | 監査役(社外)<br>独立役員    |        |              |    | ●              |                     |               |                    |    |
| 小俣 信次  | 監査役(社外)<br>独立役員    |        |              |    | ●              | ●                   |               |                    |    |

- (注) 1. 上記一覧表は、役員の有する全てのスキル・経験を表すものではありません。  
 2. MDはマーチャンダイジングのことであり、「商品化計画」や「商品政策」のことを指し、設定したターゲット(お客様)に向け、品揃えから価格設定、販売方法などを決定し実践する役割を担う。

#### 第4号議案 会計監査人選任の件

当社の会計監査人であるEY新日本有限責任監査法人は、本総会終結の時をもって任期満了により退任されますので、新たに会計監査人の選任をお願いするのであります。

なお、本議案に関しましては、監査役会の決定に基づいております。

また、監査役会が監査法人アヴァンティアを会計監査人の候補者とした理由は、現会計監査人の監査継続年数を考慮したうえで、新たな視点での監査が期待できることに加え、同監査法人の品質管理体制、独立性、専門性、監査体制及び監査報酬の水準等を総合的に勘案した結果、当社の会計監査人として適任であると判断したためであります。

会計監査人候補者は、次のとおりであります。

(2022年10月1日現在)

|       |                       |      |
|-------|-----------------------|------|
| 名 称   | 監査法人アヴァンティア           |      |
| 所 在 地 | 東京都千代田区三番町3-8 泉館三番町2階 |      |
| 沿 革   | 2008年5月 監査法人アヴァンティア設立 |      |
| 概 要   | パートナー                 | 16名  |
|       | 公認会計士                 | 49名  |
|       | 試験合格者                 | 45名  |
|       | その他                   | 33名  |
|       | 合 計                   | 143名 |

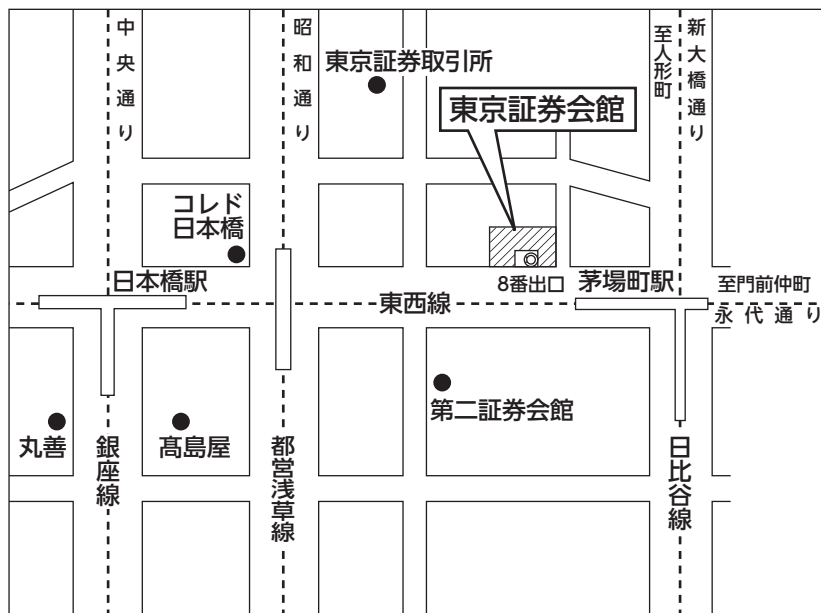
以 上

# 株主総会会場ご案内図

東京都中央区日本橋茅場町一丁目5番8号

東京証券会館 8階 ホール

電話 03 (3667) 9210



最寄駅

東京メトロ東西線・日比谷線 茅場町駅8番出口直結

お願い：誠に申し訳ございませんが、当会場には専用駐車場の用意がございませんので、ご了承くださいますようお願い申し上げます。

UD  
FONT

見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。